

第1回犬山市 ICT 活用教育研究委員会 議事録

1 附属機関の名称

犬山市 ICT 活用教育研究委員会

2 開催日時

令和6年10月1日（火） 午後3時30分から4時30分

3 開催場所

犬山市役所 4階 401会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

後藤 栄吉、間部 克敏、野口 和敬、小室 武、
鈴木 寛央、上原 敬正

(2) アドバイザー

玉置 崇

(3) 事務局

滝教育長、中村教育部長、西村学校教育課長、
山田学校教育課統括主査、阪下学校教育課統括主査

5 議事内容

西村課長：

本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。令和6年度第1回犬山市 ICT 活用教育研究会を開催いたします。進行は、学校教育課の西村が務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

初めに、犬山市教育委員会教育部長の中村よりご挨拶申し上げます。

中村部長：

今日は令和6年度の第1回ということで、犬山市 ICT 活用教育研究委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

初めてのことでですからこの後、委員の委嘱をさせていただいて、自己紹介もいただくということですが、その後、委員長を選出させていただきましたのちに、協議事項としまして、学習者用端末の更新について、また2点目で、授業支援ソフトについてという協議をしていただく予定となっております。大変重要な案

件でございますので、皆様にご審議いただきまして、またどうぞ良いアドバイスをいただけたらと思っております。

簡単ですが冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

西村課長：

本委員会は犬山市教育委員会の附属機関に位置付けられておりまして、委員会は公開ということで、傍聴が可能となっております。本日は傍聴人の出席はございません。

また、会議録を市のホームページに掲載をしていくということになります。後程委員の方2名以上の署名をいただくという流れになりますので、ご承知おきください。

続きまして委員の委嘱でございます。本委員会では事前にお配りしました犬山市 ICT 活用研究委員会規則第3条に基づきまして、児童及び生徒の ICT を活用した教育及び教職員等の教科ごとにおける ICT を活用した指導力に関することについて審議することを目的として設置をするものであります。委員の委嘱期間につきましては、本日から令和7年3月31日までとなっております。委嘱状につきましては、机前にご用意をさせていただきましたので、ご確認をお願いしたいと思います。

それでは本日は第1回目の開催でございますので、出席の皆様一言ずつ自己紹介の方をいただきたいと思います。

《各委員自己紹介》

《事務局自己紹介》

西村課長：

続きまして本日の資料の確認をさせていただきたいと思っております。お手元に先にお配りはさせていただいていたかと思っておりますが、

- ・令和6年度第1回犬山市 ICT 活用教育研究委員会次第
- ・犬山市 ICT 活用教育研究委員会委員名簿
- ・資料1 学習者用端末の更新について
- ・資料2 授業支援ソフトについて
- ・参考資料 犬山市 ICT 活用教育研究委員会規則

資料等の不備がありましたら、事務局までお申しつけください。

それでは、委員長選出の方に移らせていただきたいと思います。

委員長、副委員長の選任ということでございますが、犬山市 ICT 活用教育研究委員会規則の第5条第2項の規定にございまして、委員長は委員の互選によって決定するということになっておりますので、もし、ご推薦等あればお願いを

したいと思いますがいかがでしょうか。

間部委員：

委員長に ICT 活用研究委員会の委員長である野口委員を、副委員長に校長会の会長である後藤委員を推薦します。

西村課長：

ただいま間部委員より、委員長に野口委員、副委員長に後藤委員ということで推薦をいただきましたが、皆様いかがでしょうか。

《異議なし》

西村課長：

それでは、野口委員に委員長をお願いすることといたしまして、後藤委員には副委員長をお願いしたいと思います。

それでは、野口委員長に一言就任のごあいさつをいただきたいと思いますので、委員長の席へお移りいただきまして、お願いをいたします。

野口委員長：

今委員長にご指名いただきました栗栖小学校の野口と申します。円滑に協議が進みますように、委員の皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

西村課長：

それではこれより会議の方に移らせていただきますが、以降の取り回しにつきましては、犬山市 ICT 活用教育研究委員会規則第 5 条第 3 項の規定に基づきまして、野口委員長よろしく願いいたします。

野口委員長：

それでは先ほど事務局から説明がありました会議録の署名につきましては、名簿順にお願いをしたいと思います。今回は後藤委員と間部委員に署名をお願いします。

それでは次第に従いまして、協議事項(1) 学習者用端末の更新についてです。まずは資料について事務局の説明を求めます。

事務局：

《資料説明》

野口委員長：

ありがとうございます。それではただいまの事務局からの説明について、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

小室委員：

保守を契約に入れていくということで、今、県の方で進めているということを知ったんですけども、2つ質問があって、1つは本調達範囲を保守対象とすることなので、契約上、端末及び、もしChromebookであれば、タッチペンと当然のように電源ケーブルも保守対象にするということで間違いなかったですか。

事務局：

そういう認識でおります。

小室委員：

とすると、この保守に関しては一般的には故意過失がない状態。その辺が詳しく書いてないと、故障なら何でも対象なのかというのは、常識の範囲だと過失は不可かなと思いますが、と考えた時に、現在はそこまでの範囲が非常に潤沢になっているのであれば、本市で契約している例えば保険というものがなくても、ある程度の範囲内で直る形になるはずですが。保険代はかなり多分圧迫していたと思うので、そこの予算を組み替えることで、何らか、こちらのもしソフトウェアの方、この後、話をされるとは思うんですけども、何らか回せるのではないかと思うので、保守と保険の関係をどうしていくのかというのを、またご検討いただけるといいかなと思います。以上です。

野口委員長：

これに関して、事務局何かございますか。

事務局：

現在のGIGAにつきましても保守は適用しておりますが、それは契約の段階で、動産保険に入ることということで、それも踏まえたリース契約をさせていただいていますので、それが5万5000円のこの補助の中で、まだ詳細が出ていないのですが、対応できるのであれば、授業ソフトにというところのご意見だと思いますので、次の調達会議が近々ありますので、そこで再度確認をして、お知らせしたいと思います。

玉置アドバイザー：

県が音頭を取って共同調達というのは、大きないいことだと思います。一市町村で、議会を通すのにいろんな文書を作るのも大変でしたけど、共同調達であれば共有で使えるので、非常に働き方改革の意味においてもいいかなと思います。参考に申しますと、タッチパネルとかタッチペンを入れたというのは、もうまさに、端末を使ってどんな授業をやるかというのが想定されているということで、もっとアクティブにやろうということなので、これを文科省の資料を見ると、非常にこれは授業を多様化しようということがあるということ、踏まえていかなければいけないです。質問ですが、予備機は、県としてはどんなふうに考えていますか。

事務局：

予備機は全体の15%までということになっています。保守は今回入ってきてはいますが、予備機である程度対応するようになるところも県は考えているので、15%の範囲内であるところだと思います。

玉置アドバイザー：

この別紙2の数というのは、予備機も入れた端末の数ですか。現状の生徒児童数ですか。

事務局：

予備機も入れた台数です。

野口委員長：

関連してでも結構ですし、それ以外でも何かございましたらご意見を願っています。

上原委員：

10の5でバッテリー交換となっていますけど、これも保守の範囲で無償ということでしょうか。

事務局：

ここに書いてありますので、その範囲だと思われれます。

上原委員：

確かに今うちで使っているバッテリーも、5年近くもすると弱ってきて、なか

なかもたないのですが、普通一般的に考えると、バッテリーは保守にあまり入らないという認識があったので、これまで入っているのかなと単純に思っただけですけども、どうなのかなというちょっと素朴な質問です。全体が5万5000円というその補助金がパソコンレベルでいくと、そんなに高くないと思ったので、どこまでの範囲というのがちょっと気になったものですから。

事務局：

次の調達会議で確認をします。

玉置アドバイザー：

ちなみに4万5000円が5万5000円になりましたので、一万円上がりましたので、国が頑張りました。

野口委員長：

その他いかがでしょうか。

玉置アドバイザー：

調達会議については、県下全部の市町村が参加しているということですね。

事務局：

そうです。

野口委員長：

それではよろしいでしょうか。

では引き続きまして、6番、協議事項(2)授業支援ソフトについてを協議します。

それでは資料について、事務局の説明を求めます。

事務局：

《資料説明》

野口委員長：

ありがとうございます。それではただいまの事務局からの説明で、次年度モデル校を決めて、検証していったらどうかというご提案でございました。

併せてモデル校を決めて検証するにあたっては、校数、期間、どれぐらいのスペンで考えてやっていけばいいのか、ご意見いただけたらというような、ご提案

があったかと思えます。

それではこれに関して委員の皆様のご質問ご意見等、ありましたらお願いをいたします。

後藤委員：

確認ですが、モデル校なので、無料ですか。

事務局：

現在、調整を図っているところで、モデル校をこちらがこれぐらいの規模でやりたいと言っても、メーカー側が無料で提供できないというところもあるので、どれぐらい実現可能かわかりませんが、事務局の認識としては、モデル校は無料ではありません。

事務局：

授業支援を使うためには、アカウントの登録が必要になります。子ども用と先生用のアカウント登録というものが必要になりまして、そちらのアカウント数によって、あとそのアカウントの期間によって金額が一切変わってくるというのが現状でして、今この3社の方に事前に相談をかけている段階では、1年間はさすがにちょっと難しいけれども、一定期間であれば、前向きに検討したいというお返事はいただいております。

後藤委員：

1年間は難しいとのことですが、やる人の立場で考えると、やりやすい單元だったり、そうでなかったりすると思うんです。モデル校ということなので、やっぱり小学校1年生から中学校3年生まで、各学年万遍なくやった方がいいと思いますし、期間にしては1年間のスパンの中で使いやすいもの、時期というのがあると思うので、そのぐらいのものが企業の方にお願いができればと思いますが、ただ、そんなには貸せないよということだったら、企業が貸してくれる範囲でしかやれないと思います。

モデル校で担当する先生の少なからず負担にはなるので、やっぱり関心が高い人、こういうものを使って授業をやってみたいという人でやってもらった方が、効果は探れるのかなあとと思いますが。

野口委員長：

関連してでもいいですし、いかがでしょうか。

鈴木委員：

夏にいただいたパンフレットを見ると、メーカーによっては1年間は完全無料でお試しいただけますという言葉が載っているんですけど、今日の話だとそういったメーカーも1年間はちょっときついという返事なんですか。

事務局：

次の契約が確実であれば、というところの前提があるようです。必ず次契約がもう確実で、ただ例えば予算が間に合わないのも、その間無料でという等々のお話は聞きますけれども、それがまだ今回のモデルとしては検証で、どのメーカーを入れるかもそうですし、そもそも授業支援ソフトを入れるか入れないかも犬山市として協議をしなくてはいけない段階ですので、そういった不確実な状況の中で1年間というのは、メーカー側もお約束できますとは言い切れないというのが現状になります。

小室委員：

検証してということで機会を与えていただけるんですけども、正直その先がない可能性がある状態で、どれだけパイロットスクールの先生方が、1年間使ったけどもう来年ないのかというところのモチベーションで、正直検証ができるのかなという疑問があるので、少なくともうちで1年目やったら2年目も入れてあげたいと思います。契約の予定があるのであれば、1年間を借りられるということは可能ではあるとすると、やはりこういうソフトウェアというのは、会社により特徴あって、慣れたところがやっと思えるということを見ると、せめて少なくとも2年間の見通しがあるような状況にさせていただけるとよいと思います。2年間あるならじっくり順番に使って行こうということはできるかなと思うので、ちょっと1年単独で検証結果を出すというのは、すごく困難ではないのかと考えます。

野口委員長：

その他、どうですか。

間部委員：

質問ですが、ロイロノートとコラボノートとスクールタクトと候補が3つありますが、モデル校の話は、ロイロノートのモデル校、コラボノートのモデル校、スクールタクトのモデル校を作ることでしょうか。

事務局：

それも含めてご意見をいただきたいです。例えば来年度の4月からどこかのモデル校を決めて、そこで使っていただくというふうになったとしまして、4月までの今からの半年間に、この3つの商品をまたこれもデモアカウントを借りて、学校の先生方にちょっと触っていただいて、3つの中から1つに絞って、絞られた1つをモデル校で触ってみて、どれぐらい利用できるかなというふうに見ていく方法もありますし、3つを候補のまま残しておいて、1つのモデル校で3つ触ってもらうのか、3つのものをそれぞれ別の学校のモデル校にするのかという、いろんな方法がとれるかなというふうに思いますけれども、一長一短ありまして、検証するという視点で考えたときに、どういう形で検証していくのが一番いいのかというところで、ご協議いただきたいなと思っています。

鈴木委員：

小学校の教員代表という立場で、ちょっと自分が考えたことを話させていただくと、先ほど言った企業側が1年間という無料提供は難しいという条件と、ちょっと長いスパンでやったときに入らなかったとなったら、その向こう本当3年4年後の話になりそうな印象です。現在のジャムボードがなくなるため、授業で使えるソフトが、ヒグジャムがありそうですが、英語ばかりで使いづらいという先生が多いと思います。そういった点からも急を要すると思うので、自分は試す期間は半年ぐらいがいいと思います。それも4月からではなくて、夏休み明けぐらいのある程度学級が落ち着いた状態で、なるべく少ない学校で実施する方が、そこに关わる企業側の姿勢も前向きになると思います。学年は3年生から6年生で、一体本当にどれぐらい使ってくれるかという実績を掴むわけだから、もうその学校と決めたらすべての先生を対象にしないと、本来市が掴みたいところは掴めないのかなと思うので、何校にするかはそれも企業側が何校分アカウントくれるかというところによると思うんですけども、その企業側が許してくれた学校分、きちんとその学校の対象は全員とし、ICT活用研究委員や教務の先生が責任を持って主として、なんでモデル校を組むのかという目的をちゃんと提示した上で、半年ぐらいの期間であって、その上でやっぱり稼働率が低かったら、それは入れる価値がないというものなので、それはそういう判断でいいと思うし、稼働率が上がって、先生たちが授業で使えるようになったならば、やっぱり犬山市の授業力向上に繋がるから、市として検討していただくのがいいかなというふうに思います。

これ3メーカー全部やっていくよりは、自分はもう一択に絞って、そこはもういっぱいの人で考えるのではなくて、20人ぐらいで考えたって結論はある程度一緒になってくると思うので、1つに絞るのがいいかなと思います。

個人的な感想を言うと、一番稼働率が上がるだろうなと思えるのはコラボノ

ートEXですが、他の市町のことを考えるとロイロノートを使っている学校が多いので、そういったことを考えるとロイロノートもいいかなと思って、自分はその二択で迷っているんですけど、これは自分だけが意見を言うわけではないので、いろんな先生で決めていければいいかなと思うので、またその辺についていろいろと決まっていくなと思います。

野口委員長：

ありがとうございます。関連して何かありますか。

玉置アドバイザー：

情報提供ということで、Chromebookを入れている学校の中で、Googleを入れてGoogleだけで十分、例えば近くでは春日井は、Googleでいろんなことをやっていますので、実はGoogleだけで十分できると。だからお金の問題もあって新たなアプリを入れないというのはあるけど、僕はロイロノートというのは知っていますけど、とても便利なので悪いソフトではないと思うんです。だから先ほど鈴木委員が言われたように、今あるものでこんな授業がやりたいんだけどやれないというものを明確にしないと、単なるアプリ使いになってしまうので、なぜこれが必要なのかという、そのいわゆる授業レベル、子どもがさらに情報活用していくためには、やっぱり現在のGoogleでは足りないものがあるということを確認していかないと、検証にはうまくいかないんじゃないかな。これを入れるとこんな授業までできるし、こんなふうに子どもが育っていくし、こういう協働作業ができるから、これを入れていくんだというところが、使いやすいとか使いにくいだけだとやっぱり、なかなかそれは人の判断にもよるし、そのメンバーにもよるので、その辺りがいろんな先行している学校を見ると、やっぱり新しいアプリを入れていく時には、現在ではできないけど、これだったらこういう授業ができる。それから操作性も含めて、同じことができるけどこんなに手間がかかってやるならこっちの方がいいという判断で、入れていく市町があります。だからその辺りを、すでにモデルを見られてやっておられるんで、その辺りも授業支援というもののその中身も検討されていると思いますけど、その辺りも明確にされた方が、モデルを入れていくにしてもいいんじゃないかなということ 생각합니다。

野口委員長：

ありがとうございます。その他にいかがですか。

間部委員：

さっき自分が質問したことに絡めてというか、さっき3つのソフトそれぞれにモデル校を設置するんですかというような質問をさせていただいたんですけど、もし仮にですけど、例えば犬山中学校はロイロノート、城東中学校はコラボノート、南部中学校スクールタクトみたいなことになった時に、自分の学校の先生方のことを考えると、スクールタクトのモデル校になったからということでもスクールタクトでこんなことができるんだからこんなことができる、多分いろいろ半年なり1年なりやると思うんですけど、それで1年経った後、使い勝手も含め、ロイロノートにしますみたいになった時に、今までの1年間なんだったとなる気がする、さっき鈴木委員も言われたんですけど、やっぱりモデル校に投げる前に、ある程度犬山市として絞っていただいた方が、学校現場の先生方も巻き込むことになってくるので、検討が必要と思いました。

事務局：

その点につきましては、事務局でもこのモデル事業を検討した時に、1つに絞ってやるのがいいのか、その3つをそれぞれにやってもらうのがいいのかというのは、意見としてありました。学校現場として、今間部委員がおっしゃられたように、先生方のご負担もやはりありますし、鈴木委員が先ほどおっしゃったように全部の先生にやっていただくということであれば、全部学校を挙げてやっていただく必要がありますので、そういった時に先を見通した時に、どこまでがご負担にならないかということも踏まえて、この場である程度方向を決めていただけると助かります。

野口委員長：

先ほどアドバイザーの玉置先生からのお話、本当にその通りだなということを感じましたし、鈴木委員の一択にというご意見もよくわかるので、おそらくこの3社を1つの学校ですべて検証するというのは、結構大変じゃないかなということを感じる、一択に絞ったほうが良いと思います。

一択に絞る上で、ではどういう絞り方をするのかと言った時に、今、このGoogleで皆さん授業やられていて、本校も結構使っているんですね。とても楽しい授業をやっているんですけども、やはりどういう授業をやりたいか。Googleだとそれができないからこの会社を使いたいというのが出てこないとなかなか使ってもらえないのかなというふうに思うので、現状把握をワンクッション置いた上で、モデル事業になっていくのがよいと思います。

あと検証期間とかは、今半年というふうに鈴木委員の方からありましたが、夏休み明けにそういうスケジュールでも、市の方は大丈夫でしたか。

事務局：

例えば来年の令和7年度が検証の年だとして、令和8年度に導入するか否かの判断をしなくてはいけないとなると、夏休み明けからの半年間の検証を終えて、そこで評価をして、次年度に間に合うかっていうと間に合わないというところがあります。時期的なところを見て、もし8月以降のところからスタートし半年間を検証期間だとすると、それを評価して導入するという決定ができて、令和8年度ではなくおそらく令和9年度の導入ということになると考えています。

もうちょっと早い段階で、学校で言うと前期の間とか、引っ張ってもそこまでではないかなというふうに思いますが、でもそこから評価をして、意思決定をして予算要求していくというスケジュールを考えると、前期末まで待ってから動き出したら多分間に合わないので、もう夏ぐらいから評価というのを始めていかないと令和8年度には多分間に合わないというのが、実際のスケジュール感です。

野口委員長：

夏ぐらいから評価を始めるとすると、実際にその評価をするための検証事業は大体どれぐらいになりますか。

事務局：

4月から始めたとしても夏休みに入るまでのところで一旦切って、そこでの評価をもとにして判断をしていかないと、次の年度に間に合わせるというのは難しいかな。もう1年先でもいいからゆったりと評価をしてということであれば、それはそれでいいと思うんですけども、令和8年度の導入に向けての検討を来年度のうちにやるぞとなると、結構タイトなスケジュールになるのかなというふうに思います。

鈴木委員：

今の話だと、再来年度スタートさせようと思ったら、来年度の4月からスタートさせるか、場合によっては、今年度の冬以降の2択しかない。

上原委員：

市の予算を組むのにどうしても9月から予算の編成が始まるんです。それでやっていこうと思うと、やっぱりその年内に、ある程度決めてというところになってくるので、今おっしゃったように令和8年度からだ、もう来年前半でやって、秋の予算編成をやって次年度の予算を取っていくというふうになるというスケジュールになります。なので、そこで下半期でやると、そこから検証となる

と、もうあと半年ずれて、補正予算かその翌年度の途中からやっていくかというような形になるので、年度の頭というところちょっと前倒しでやっていかないと、秋の編成に間に合わないのではというふうになってくると思います。

鈴木委員：

なのでやっぱり4月からやらないと、再来年度のスタートは間に合わない。

逆に今年度の冬以降に、モデルでやるから、そのお金かからずに企業が対応してくれると言ったら、動き出すことは可能なんですか。

事務局：

それは今年度の冬から、来年度もまたがってというイメージですか。

鈴木委員：

メーカー次第だと思うんですけども、もう3月までで切っても、別に4月やろうが5月やろうがその検証するそのデータに、価値があるように思えないので、冬から3月までで切ってしまうと、十分データはとれるのかなというふうに思うんですけど。絶対4月は稼働率が下がると思うので、それはじゃあ4月稼働率が下がったから使えないソフトなのかという間違ったデータにもなりかねないから、別に3月までで切つてしまえばいいと思うんですけど。

要するにその再来年度のスタートなのか、その次の年のスタートなのかって、大きく違って来るなと思って、再来年度からのスタートがもし冬からの実践でできる可能性があるんだったら、自分はちょっとその可能性を考えたいなと思いました。

玉置アドバイザー：

他市の例でいくと、必ずしもモデル校をやってその実績をもとに予算要求をしているパターンばかりではないです。すでにこのアプリというのは、結構あちこちでも動いていますから、例えばICT活用委員会さんが動かれて、実際に活用している学校にヒアリングされて、これはまさに今犬山市で入っているものではできないいい授業なり、いい実践ができると。そういうものをもとに、入れていくという予算要求、さっき小室委員が言われたように、1年間やっても予算つかなかったらという意見も非常にわかります。だから、他市の例を思い出してみると、そういうふうに、できたばかりのアプリではないので、あちこちに実績があるわけですから、委員会の皆さんが視察に行くなり実際生の声を聞いて、これは今犬山が入れようとしているものだけではできない。こんな教育がしたいということをして裏付けにして予算要求して、全市に入れていくとかいうことも、視

野に入れられたらいいと思う。予算要求するとき、犬山市で実績がないと、それは要求として通らないということがあれば、それはもちろんモデル校でやるべきなんだけど、その辺りも、今、いろんな市の状況を見てみると、そういうパターンもありますので、参考にとということ。

野口委員長：

ありがとうございます。

後藤委員：

江南市が Chromebook を導入した理由の 1 つが、いろんなアプリが無料で使えるという理由だったんですね。現在の Chromebook で、いろんなことがやれているということも思っているんです。ただその中で、Google のアプリだけではもう十分やれないことが、ひょっとしたらこのロイロノートとかコラボノートでやれるのかもしれないということがポイントになるのかなあというふうに思っています。

この前予算要望で市の方と話をした時に、とにかく財政が厳しいということだったので、要望する時に Chromebook のアプリではちょっとやりきれない部分がある、こういうソフトを導入することによってやれるという話ができるのであれば、別にモデル校を作らなくても話はできていくのかなというふうに思いますし、3社の中から1つ選んでいくという方向で話が進んでいるので、それを選ぶ基準として、今の Google のアプリだけではやれないものが、これを使うとやれるというものを選んでいけばいいのかなというふうには思います。選ぶのはやっぱり委員さんなり中心になってやっている方が、選ばれればいいかなというふうには思っています。

野口委員長：

今モデル事業をやるために、対象学年とか校数とか、そういうところからの提案から始まりましたが、今、話の流れからモデルをやらない方法もあるんじゃないかというご意見が今出てきてますけども、犬山市の予算要求する場合の、それで通っていくのかということも関わってくると思うのですが、事務局、いかがでしょうか。

事務局：

モデル事業の話というのは、やはり犬山市にとってそれが本当に必要だということの判断材料として、モデル校で実践して検証をしてその結果でというところで、事務局として考えたものですので、その方法として、今委員の皆さん

やアドバイザーがおっしゃったように、それだけが検証すべき内容ではないというのは、今のご意見で同じ思いでいます。

モデル事業をするにしろ、他市町をヒアリングをするにしろ、今の、Chrome の Google のソフトツールではできないというところを、どこができなくて、それに対してどうしたらいいかというその検証が逆に必要と、お聞きして思ったのですが、それはどのようにしたらできるものでしょうか。これができないよというのは、何かどこかでそういう意見というのは、集約とかはできるんでしょうか。

小室委員：

難しいところは、使っていないというか、できないこととできることの部分で、実際使ってみるとさらにこれはわかるんですけども、使う前すぎてそれがわからないというか、一般的にはこういうふうだと想定は聞くんですけども、それ以後、効果等は実際使いながらわかってくるので、むしろ逆に言うと、もう多分業者が持っているこういうことができますというメーカーのプレゼンテーションの内容が、一番ポイントになってくる部分かもしれないなと思います。

野口委員長：

今年度、7月24日にやっていただいて、自分たちも参加してますが、もう少し詳細に実演等としていただきたいということですかね。

小室委員：

そうですね。

野口委員長：

例えばそれは各校 ICT の委員がいますので、その方々に出ていただくのか、それとももうちょっと各学校回ってもらおうとか、そういうことを想定してみえるのか。

小室委員：

オンラインで繋いで、そこでプレゼンしてもらってもいいと思うので、その時間だけ取っていただいて、同時に連発でなれるとよいと思います。1回目のファーストギガを選ぶ時にも、実はオンラインでパッと繋いで、何社か何か見せていただいたことがあったので、それをそのように見ることは可能かなと思います。

玉置アドバイザー：

あと1つアイデアとしては、企業側だけの話を聞くよりも、この3社が推奨

する学校を指定していただいて、できれば委員会で予算つけて旅費を出して、現場の声を聞いたほうが僕は確かだと思います。企業はいいこと言いますよ。ある企業は、それを入れた自治体が被害者の会を作って訴えようというところも実はあるので、だからやっぱり生のユーザーの先生たちの声を聞いた方がいいと思いますね。やっぱりその企業が一番見に行ってくださいというようなところの先生たちの声を聞いたほうが一番僕は確かかなという気がするんですけど。

鈴木委員：

今、モデルをするのか、ヒアリングでその資料を集めるのかという話があったと思うんですけど、私はやはり、犬山市の中できちっとモデル校を作ったほうがいいと思っています。というのも、本当に最近、すごい年々目まぐるしく環境が変わっている中で、先生たちまた多分これ、例えばロイロノートが入るとヒアリングで予算を立てていただいて決まりました。学校にロイロ入りますとなった時に、きっとどこかの話で、「いやでも莫大な予算かかっているから使わないと駄目だよ」みたいな話を聞いたときに、「また新しいのが出たのか」ってなると思います。せつかく市としては、本来そもそもこれは先生たちが Chromebook を使って授業する上で困っているから、何とかサポートしようというその先生たちのために動いているのにもかかわらず、現場としては、「なんで市、こんなことするの」って、何か謎の摩擦や誤解が発生すると思います。でも、ちゃんとモデル校を組んで、本当に必要だったか、どれぐらい使ったかというのは本当にシンプルに2つだけのデータでいいと思うんですけど、ある学校とこの学校とこの学校でやったらこれだけのデータが出たから、入れることに決めました、先生たちで。

我々としては、先生たちの授業を支援するために、頭寄せ合ってこれだけ考えて入れたんですと説明したら、先生たちは「市、それだけやってくれたんだ、そんなに使える先生がいるんだ」と、前向きで受けとれる。せつかくこれだけ頭寄せ合って考えているのに、なんか現場とサポートしていただけている体制が、何か変な摩擦を生まないようになるといいなと思うと、やはりモデル校をちゃんと作って、シンプルな質問をして、そこで使えないという声と、稼働率が悪かったら、それはもう結構準備していただいた先生とか、市の方には本当に無駄な労力なっちゃうかもしれないんだけど、必要がなかったと知らない予算を組む必要はなかったんだ、税金を救えたという観点でいいのかなというふうに思いました。

野口委員長：

鈴木委員は一択に絞って、モデル事業をとというお考えじゃないかなと思うん

ですけれども、一択に絞る上では、どのメーカーにするかを考えなければいけないですね。

鈴木委員：

そうですね。7月に行ったメーカーのデモンストレーションでも十分だと思います。20人ぐらい集まって意見を聞くとよいのではないのでしょうか。

野口委員長：

メンバーは ICT 活用研究委員会ですね。

鈴木委員：

それでもよいですし、逆に、そうじゃないほうがいいのかも说不定い。ICT 活用研究委員会は達者な先生が多いため、何で市としてこうやって検討して欲しいかという、慣れていない先生の声が聴きたいです。

野口委員長：

わかりました。

玉置アドバイザー：

こういう授業支援を入れた方がよいというのは、どこからどう出てきて、今一生懸命検討されているのかを確認したいです。例えば ICT 活用研究委員会が皆さんにアンケートとったところがこういうデータが出てきたから、動いてるとか、その辺りのことを参考にお聞きしたいです。

小室委員：

僕は最初の会議から5期務めさせていただいているんですけども、最初は Google の純正のところを始めますということで、その最初の時にも、もしできれば入れていただいたほうが、皆さん使いやすいのではないかということで、スタート時に、そういった確認があったと思います。ただすぐに導入するために予算がつかないので、まずはなしでいきましょうということで始まったと思います。

その後市の校長会の方の ICT 活用研究委員会の方で、純正のものでできる限りのことをやってきてはいるんですけども、その中でやはりこれ3年か4年たった中で、やはり他市町村からそれを活用している先生方が入ってくる中で、こういったソフトが使えるともっと授業がよくなるよという話を聞き始めて、ICT 活用研究委員会の中でもこういったソフトが入れていただければ、より活

用が進むだろうということで、委員会の中でもよく名前が挙がってきて、入れてもらいたいなという意見が上がってきました。

その中で、次の更新の5万5千円のパッケージの中に、もし入れられるのであれば、市の予算は使わないので、それでどうだろうなという話をさせていただいてきているとは思いますが、ただパッケージ分のマックスの中に、入らないぐらいの予算規模になってしまっていると思うので、今ここにたどり着いて、検証が必要ではないかという議論になってるのかなと思います。

個人的には、5万5千円のパッケージに含まれていないことがわかったため、先ほどのアドバイザーの意見にもあったように、モデル事業の前に、現在のChromebookの機能をどれだけ使用していて、その上で、何ができないかという検証が必要だと感じました。

野口委員長：

委員の皆様からのご意見から、現在のChromebookの活用状況の把握が必要と判断しますので、ICT活用研究委員会を含め、まずはChromebookやGoogle機能の活用状況等の把握を進めていきたいと思えます。併せて、事務局を中心に、他市町の状況把握について視察に行くかどうかも含めて、相談していただきながら進めていけたらと思えますので、よろしく願いをいたします。

それでは司会がちょっとまずくて、時間をオーバーしてしまって大変申し訳ございません。

最後に本日の協議について、アドバイザーの玉置先生よりご意見を、お願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

玉置アドバイザー：

その都度、お話をさせていただきましたので、ありません。

野口委員長：

はい、ありがとうございます。

それでは以上で議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

西村課長：

野口委員長どうもありがとうございました。

最後に教育長にご挨拶させていただきます。

滝教育長：

本日はお疲れのところ、犬山 ICT 活用教育研究委員会にご出席をいただき、貴重な意見をたくさん賜りましてありがとうございました。

思い起こしますと2020年、令和2年ですかね、コロナによる全国一斉の臨時休業によって、一気にGIGAスクール構想が進んだわけでありますけれども、このGIGAスクール構想という言葉がなかなか思い出せなくて、今日も通勤途中の車の中であれ、なんて言ったんだろうと思いながら出勤をしまして、席へ着いたら、GIGAスクール構想というのが頭に出て、もうGIGAスクール構想という言葉は、ほとんど使わなくなってきました。

当時の市町村の教育委員会や学校などの教育現場は、急速に進化をしていく、発達していく、変化をするICT環境に対応しなくてはならないといった苦しい立場に立たされたわけでありますけれども、どうにかこうにか犬山もここまでやってこられたなというふうに思っているところです。これも本日までご出席をくださっております委員の皆様方のお力添えあってこそということというふうに、改めて感謝を申し上げる次第であります。

学校訪問で学校現場を訪れる機会がありますけれども、子どもたちが学ぶ姿。そして、先生方がそれを支える姿を見させていただきまして、タブレット端末をはじめ電子黒板などは、無理のない範囲で効果的に活用されているのではないかなというふうに私自身は感じているところであります。

あれから4年が過ぎまして、いよいよ再来年かな。8年度から機種をどうするのか。本日委員の皆様にご協議いただき、Chromebookを継続して、これまでと同じようにリースで契約をしていくというので、委員会としてのご意見をいただきました。

2つ目の授業支援ソフトをどうするかということですがけれども、多分あるにこしたことはないだろうと思います。ただですね、多額の費用をつぎ込んで、それに見合った活用、そして効果が期待できるかどうかという、疑問があります。おそらく、これを導入している近隣の市町があるので、これまで使ってみえた先生はあったほうがいいに決まっているんだけど、僕は何かすごく二極化が進んでしまう、使う方は使うけれども使わない方は使わない。そしてうんと使われない先生が多いんじゃないかなあというふうに思う。そうすると先ほど鈴木委員がおっしゃったように、市がいろんなもの、余計なものを導入するから、現場が苦しいんじゃないかというような方を増やしてはならないなというふうに思うんですよ。これがあると、こんなことができるということではなくて、こんなことがしたいからぜひこれが必要であるという声が本当にあるのかどうか。あったらいいなという期待感ではなくて、なくてはならないという切実感があるかどうか。これはやっぱり、重要な判断材料にしていきたいなと思います。

まずは、本当に Chromebook が持っている機能が十分に使いこなせているか。十分に使いこなせていない状況で、これも欲しいあれも欲しいというのではなくて、Chromebook の機能を 100% 使い切って欲しいというふうに思うんですね。その上で、さらにこの機能が必要だというのであれば、やっぱり前向きに検討する必要があるのかなということをおもいます。導入前提でモデル校を実施するのか。導入するかどうかを、モデル校の取り決めをもとに判断をしてくるのかといったら、どちらかというとな後者の方ですね。アドバイザーの玉置先生はじめ委員の皆さんのご意見を聞いてみると、あえてモデル校をやるまでもないのかなあというふうに私は感じました。あえてモデル校を設定すると、変な期待を持たせたり、変なプレッシャーをかけてしまうようなことになってしまわないかなということは、実は危惧をしているところです。今日この場でいろんな先生方のご意見をお聞きしながら、また事務局としての方向性を検討して参りたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方には、様々な面で重責を担っていただくことになるとお思いますけれども、これまで通り、また力添えを賜りできることをお願い申し上げまして、お礼とお願いの挨拶とします。本日はどうもありがとうございました。

西村課長：

それではこれもちましてですね、第 1 回犬山市 ICT 活用教育研究委員会で閉会させていただきます。

なお次回の委員会は 2 月頃を予定しております。開催に当たりましては、また、事前にお知らせをさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。